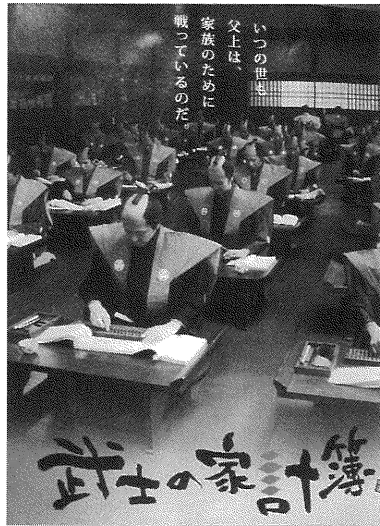


気にならないほど、映画の内容が素晴らしかったのだ。
この映画大きく三つに分けて「そろばん」「人物像」「語り口」から話していこうと思う。

一、「そろばん」

武士の家計簿。映画の中のフリーズで言うなら、「刀ではなく算盤で家族を守る武士の物語。」時は江戸時代末、加賀藩、その代々「御算用者」として会計係をまかされる猪山家。その八代目の猪山直之が主人公である。この主人公が算盤を使い、数字の帳尻を合わせながら、外では城の役人の不正を暴き、内では借金に危うくなった猪山家を質素儉約で救う。そのために家計簿をつける話である。つまりは簿記の話である。「帳尻さえあつていれば、途中が抜けていてもいい」というセリフは、簿記会計でいうところの財産法・損益法のお話。内容はとても地味である。映画館で見ると「けれん」に欠ける。暗い中での大スクリーン。そこに映えるのはアクション映画。侍映画であるなら、刀を合

わせるチャンバラ映画が定番。なのに、この映画、その物語の中でアクションの少なめである刀さえも借金のかたに手放してしまふのである。しかし、だからといってこの映画、動きがなくてつまら



父上は、
家族のために
戦っているのだ。

ないかというところ、そんなことはない。この映画、アクション、あるのである。しかも冒頭、そして終幕そして途中に。それは算盤の弾きと音である。映画での算盤は、今のような天五珠一つの下四つの珠ではなく、天五珠二つの下五つの珠である。形が違う。そして音も違ってくる。今の少し高い乾いたパチパチという音ではなく、低く響くカチカチという、しつかりした音だ。映画では仲間由紀恵演じるお駒がその音を「きれいな音で、私、好きです。」と言う。(仲間由紀恵の声とこの映画は質が合う。声が良くてリンと響く) そんな音である。

映画は冒頭、明治十年海軍に入った直之の息子九代目猪山成之の姿をうつす。そしてその成之の指の先で算盤が弾かれるところから、映画が始まる。そして終わりも成之の時代に戻り、成之の算盤の弾きで物語が閉じられる。さらに算盤の大写しがスクリーンに現れ、指がその算盤の珠を静かに払って、映画を払って終幕を向かえる。静かなとても静かな算盤の珠の動きと音のアクション。

しかし、映画の途中には珠の激しい動きもある。江戸時代、父直之が勤める「御算用場」という部署では、一斉

に五十人以上、算盤を弾くシーンがある。その集団での音。鳴り響く音、この腹にくるリズム。スクリーンの大画面で見たいゆえの感動。

この映画では算盤の音が活躍する。個人の弾き、集団での弾きと形を変えて、静の音、動の音と音の形を変えて。今までのドラマでの小道具扱いではなく、主役が「そろばん」なのである。映画を終わらせるのも人ではなく「そろばん」。

二、「人物像」

この映画の素晴らしさは、配役にもある。主役の八代目直之に堺雅人。頑固実直の「そろばん侍」。十銭の単位まで帳尻を合わせるその律儀さ、融通のきかなさ。映画では「そろばんバカ」とまで言われる。その本質は何であろうか。もし刀を武士の魂と呼ぶなら「そろばん侍」は算盤が魂。名前をつけるなら「そろばん魂」であろうか。

その譲らない魂は、息子への厳しい指導も含めて確かな理想の形をみている。そこに頑固実直な魂がある。それを体現してくれたのが堺雅人。ハマリ役である。

さらに、配役として、直之のお母さま成之のおばさまに草笛光子。毎朝食時に子供に「塵劫記」から問題を出す。そしてその一問を食事しながら解くという至福。おじいさまでなく、おばあさまであるのが配役の妙。たぶん夜には、子守唄代わりに問題と答を与えたのではないだろうか。眠りの中。もしや珠算関係者の中にもそうやって

読み上げをしてもらった記憶を持つ方もいるやもしれない。何かを好きになるきっかけは、おばあさまの影響というの割合多いのではなからうか。

さてここでは「和算」が出てくる。計算と論理がしあわせに共存している世界。計算をベースにした想いがあって、それが問題につながっていく。または逆。そこにも、また異なった「そろばん魂」がある。

この映画、役者をピタリとその絵に嵌め込む。

三、「語り口」

最後に武士の家計簿、その語り口が素晴らしい。物語の最後に突然感動がやってくる。映画を見ている観客と直之・お駒の三人しか知らないあること。それを知っている共犯感覚。これが観客におしよせてくるのだ。観客も映画に参加させられるその見事さ。

余談。劇場でのパンフレットが素晴らしい。一見すると算盤の絵をあつらった筒状の入れ物。家計簿のようなパンフレットがその中にスッポリと入っている。最初取り出し方がわからず、売店の人に聞く始末。売店の人も苦労して中味を取り出す次第。それほど凝って作った代物であった。

森田芳光監督の映画には、いつも必ず印象深い絵がある。「家族ゲーム」の絵。「ハル」のあの絵。「39」のまさかの絵。そしてこの武士の家計簿。鯛の絵をみんなで運ぶその重なるの絵もいいが、やはりこの場面の絵。すこい。谷賢治先生の算盤指導ありの決め絵。